

## B. 教育と研修

永山聡子

### 概要

北京行動綱領では、初等・中等教育のジェンダー格差の解消、教育への平等なアクセスといった、具体的かつ緊急を有する取り組みの必要性が強調された。学校をジェンダー敏感なシステムにすることにより、女性自身が「自分で選び、自分決定する力をつけること、差別を見抜く力をつけ、変革の主体になること」への強い期待が読み取れる。そのためには職業教育、専門教育の充実がよる「女性の経済的自立支援」が不可欠であると指摘されている。(『教育』「女性 2000 年会議」日本 NGO レポートから)

### 具体的な内容

#### 「女性の教育と研修」

- 1) 教育における女性の差別問題に取り組む政府や関係機関の努力は認められる。
- 2) しかし、依然として女性が高等教育や職業訓練の機会を十分に得られない現実がある。性差別のない教育カリキュラムの開発・教育改革の構築・監視が大きな課題である。
- 3) 教育におけるジェンダー格差は社会・経済的に不利な立場の人々・先住民・難民の間ではさらに大きくなる。
- 4) グローバル化・経済危機・武力紛争・無責任な開発による貧困の増大は女性と少女の教育機会にも影響する。
- 5) ジェンダー視点を組み込んだ無料の初期義務教育（9年生まで）と、少数民族・先住民・障害者・難民のための特別措置が必要である。
- 6) 全体に配慮し、差別的内容を排除したものとすべき改訂・改革を求める。

### 成果と課題

**成果：**教育は、ジェンダー平等と女性のエンパワーメント実現のためのもっとも貴重な手段の一つであるという認識が高まっている。特に政治的コミットメント(関与)や資源配分に十分に恵まれているケースでは、あらゆるレベルで女性や少女に対する教育や訓練が進展した。先住民社会その他不利な立場に置かれ疎外された集団の女性や少女に、あらゆる分野の学習、特に非伝統的な分野の学習を行うことを奨励し、また、教育・訓練からジェンダーによる偏見を取り除くための、代替教育・訓練システムに着手する措置があらゆる地域で講じられた。

**課題：**一部諸国では、女性や少女の非識字を一掃し、識字能力を強化し、女性や少女がレベルや種類を問わずあらゆる教育を受ける機会を増やす努力は、資源の不足や教育の基盤整備改善及び教育改革実施を目指す政治的な意志やコミットメント（関与）の不足、教員研修の場などにおける根強い男女差別やジェンダーによる偏見、学校や高等教育機関、地域社会における職業に関する固定的な性別役割分担意識、保育施設の不足、相変わらず教材に登場する固定的な性別役割分担意識、女性の高等教育機関への進学と労働市場のダイナミクスとの関係に対して払われる関心の低

## 「北京行動綱領」勉強会

さなどが障害となって十分成果を上げることができなかった。また、一部地域は遠隔地であることや、またある場合には給与や手当が不十分であるために教員を確保し、つなぎとめておくことが難しく、質の低い教育に甘んじている例もある。また、経済的・社会的・構造的障害や伝統的差別慣行が、少女の就学率や学業継続率に影響している国も多い。一部途上国では非識字の一扫にほとんど前進が見られず、経済的、社会的、政治的レベルにおける女性の不平等が悪化している。こうした国の中には、構造調整政策の内容や適用が不適切であるために、教育基盤整備に対する投資が削減され、教育部門に特に厳しい影響が出ている例もある。

### 重要な目標（抜粋）

#### □戦略目標 B1 教育への平等なアクセスを確保する

a)ジェンダー、人種、言語、宗教、出身地、年齢あるいは障害に基づいた差別、または他のいかなる形態の差別、教育に対するアクセスの不平等という目標を進展させること。さらに適宜、苦情に対応できる手続きの考慮する。

b)2000年までに、全ての者に基礎教育へのアクセスを保証し、小学校学齢児の少なくとも80%が初等教育を修了すること

c)あらゆる分野の高等教育へのアクセスにおけるジェンダーの不均衡を取り除き、キャリア開発、研修、奨学金などに対する平等なアクセスを女性に保証し、適宜、積極的な方策を講じる。

□戦略目標 B2 女性の中の識字率を根絶する。

□戦略目標 B3 職業研修、科学技術、継続教育への女性のアクセスを改善する

□戦略目標 B4 差別のない教育・研修を開発する。

□戦略目標 B5 教育改革のために十分な財源を割り当てて、遂行を監視する。

□戦略目標 B6 女兒と女性のための生涯にわたる教育・研修を促進する。

#### 参考文献

松井やより,1996,『北京で燃えた女たち—世界女性会議’95』(岩波ブックレット(No.391))岩波書店 p59.

日本弁護士連合会,1996,『問われる女性の人権—北京1995第4回世界女性会議日弁連レポート—』こうち書房